



橘神社 参道

【橘神社という名前に惹かれるものを感じつつ訪ねてみると、それは意外な神社だった。

昭和30年（1955年）創祀で氏神として弟橘姫命（オトタチバナヒメ）を祀っているという。なるほどその橘なのかと納得はしたのだけど、昭和30年にオトタチバナヒメを祀る神社を何故この場所に建てたのかは謎だ。創建のいきさつなどを記した説明書きはない。

オトタチバナヒメ（弟橘姫）は『日本書紀』によるとヤマトタケル（日本武尊）の妃のひとり、穂積氏忍山宿禰（ほづみのうじおしやまのすくね）の娘となっている。ヤマトタケルとの間に稚武彦王（ワカタケヒコ）がいたとする。

ヤマトタケルの東征に付き従い、一行が相模（神奈川県）から上総（千葉県）に渡ろうとしたとき海が荒れて渡れなかったため、海神の怒りを鎮めるべくオトタチバナヒメは自ら海に入ったところ暴風雨はおさまり、ヤマトタケル一行は無事に海を渡ることができたという。

玉浦でヤマトタケルはオトタチバナヒメを祀る社を建てたのが橘樹神社（千葉県茂原市）で、ここは上総国二宮であり、『延喜式』神名帳（927年）では「上総国 長柄郡 橘神社」として記載されている。

尾張国でヤマトタケルの妃といえはミヤズヒメ（宮簀媛）との物語がよく知られていて、氷上姉子神社などにその伝承が伝わっているのだけど、千葉県など関東一円ではオトタチバナヒメに関する伝承が色濃い。吾妻神社や走水神社など、オトタチバナヒメやヤマトタケルを祭神とする神社が一带に分布している。

尾張におけるオトタチバナヒメというと、熱田神宮の末社の水向神社がオトタチバナヒメを祭神としている。しかし、痕跡としてそれくらいで、他にはほとんどないのではないかなと思う。】

【 】内は 『名古屋神社ガイド オオタマサユキ著』より抜粋）



橘神社 社殿

水向神社（みかじんじゃ）

インターネットで水向神社を検索したら次のような内容がありました。

熱田神宮・六末社

六末社というのは、乙子社（おとごしゃ）、素戔鳴神社（すさのおじんじゃ）、今彦神社（いまひこじんじゃ）、水向神社（みかじんじゃ）、姉子神社（あねごじんじゃ）、日長神社（ひながじんじゃ）の6つの神社（熱田神宮の末社）のことです。

水向神社の祭神は日本武尊の妻で荒れ狂う海の神を鎮めるために自らの身を海にささげた「弟橘媛命」。

参考 タチバナ（ウイキペディアより）

ミカン科ミカン属の常緑小高木で柑橘類の一種である。日本に古くから野生していた日本固有の柑橘である。古事記、日本書紀には、垂仁天皇が田道間守を常世に遣わして「非時香草（ときじくのかぐのこのみ）」と呼ばれる不老不死の力を持った霊薬を持ち帰らせたという話が記されている。古事記の本文では非時香草を「是今橘也」（これ今の橘なり）とする由来から京都御所紫宸殿では「右近橘、左近桜」として橘が植えられている。

（完）

『特集！』 ほだかの里だより記念50号に寄せて

大高歴史の会の会報「ほだかの里だより」が記念すべき50号を迎えました。平成23(2011)年4月の創刊以来、12年に渡り季刊誌として発行を続けてきた成果です。今回、記念号の足跡の一つとして会員の皆様へ会報への寄稿をお願いした所、貴重なご意見を寄せていただきましたので紹介いたします。

※1 終の住処として大高を選択

林田直子

皆様、NHK 大河ドラマ「どうする家康」を見ていらっしゃいますか？

私は大河ドラマをずっと見てきていましたが、今年は何が特別です。なぜって？それはこの大高地がドラマの最初の舞台だったからです。

今川義元の命を受け1560年5月18日夜、大高城に兵糧を入れ、丸根砦の陥落を成し遂げ、大高城主として2万5千の兵を連れての義元の入城を待っていました。

そして桶狭間の戦い(5月19日夕方、桶狭間で義元が信長に討ち取られた)を知り岡崎に逃げ帰ったのです。

寺部城の戦いから51戦(33勝13敗7分)をすぐれた四天王をはじめたくさんの部下に恵まれ、一つ一つの戦いで学び選択し人を大事にする人間性、人柄で勝ち抜き、念願の天下統一を果たし73歳までの生涯のこれからのドラマの進行を楽しみにしています。

家康に限らず私一人の人間にとっても人生の選択、結婚、子育て、70歳にして神奈川から大高を終の住処として長男夫婦と二世帯住宅同居・等々、一つ一つの選択のつながりが結果的に人生だと思えます。

私は現在、大高歴史の会で、大高城跡の案内など頑張っています。

3.3.3の大高、ご存じですか？

①三種の神器の一つ、草薙の剣(熱田神宮のルーツは大高にあり)は氷上姉子神社の祭神ミヤスヒメが守護していた。

②三つの国史跡、大高城跡、鷲津砦跡、丸根砦跡

③三軒の造り酒屋、現在、名古屋には5軒の造り酒屋があり、そのうち3軒は大高にあり、萬乗醸造、神の井酒造、山盛酒造、毎年2月の第4日曜日は、神の井酒造、山盛酒造の酒蔵開きです。わたしも案内させていただきます。

大高が名古屋のどこにあるのかも知らなかった私ですが、今は大高が大好きです。

セントレア空港も金山から近いし、東名高速も大高から乗れるし、新幹線も名古屋駅まで行けばいいし行動がしやすいです。

自分が興味を持ちさえすれば、行きたい所はたくさんあります。たくさんの仲間もできて70歳にしての選択は当たりでした。今年81歳になります。

これからも選択を間違わず充実した日々を重ねて行きたいと思います。

※2 大高緑地公園

大磯章文

周囲 4 キロメートル、正確には約4060m位だと思っています。南北に、鷲津砦の交差点から国道一号線まで広い緑多い公園で皆様の憩いの場所になっております。

私がこの公園を走り始めたのは29歳の2月の中旬だと覚えております。20代、体力にまかせて、たばこは吸う、酒は呑み二日酔いをして、仕事に出掛ける毎日が続けていましたが、体力の衰えを感じるようになり、こんな生活をしてはと思い、走り始めた次第です。それから45年がすぎました。おかげで煙草も止めまして、現在まで続いております。

朝、4時半に起床して、緑地公園を一周して往復、家まで約10Km位、2.3か月ぐらい続けていると少しずつ早くなるので楽しくなって来ました。又、仲間が

でき、走友会作り、市民マラソンにも参加する様になり、駅伝大会にも参加するようになりました。

私が走り始めた頃の緑地公園は名前の通りみどりは多かったのですが桜や梅等々、華やいだ色彩の樹木が少なかった様な気がしました。その内、桜の苗木を植え、今では“桜の園”という春になれば実り美しい華やいだ気分させてくれます。

二月頃になれば、日本庭園で梅の花が咲き、早朝、寒い中に香りがよく匂うと春も近いと感じながら走る毎日です。

今の季節、紫陽花も咲き始め非常に美しく梅雨のうつつうしさも忘れさせてくれます。緑地公園の四季、自然はもちろん、色々な行事も多彩です。過去、私達、走友会が主催した公園内4時間耐久マラソン大会を15年実施しました。

又、現在も3月第一日曜日に開催されている学区対抗駅伝大会、緑区内29学区の人達が元気に頑張っております。

そして春の訪れと共に鶯(うぐいす)の声を聞くことができます。なかなか姿は見えませんが徐々に季節が深まっていくと上手に聞こえてきます。

又、公園内には相当数の野鳥がいます。冬には地元の探鳥会の人々が双眼鏡やカメラ持参で公園を散策しております。

竹林も整備され夏の暑い季節には竹林の中を走ると涼しくて気持ち良く土の感触がコンクリートと違って気持ちが良いと思います。この竹林は4月の土曜日に限り竹の子取りに解放され親子達で賑わっております。

公園内から冬の天候の良い日には遠く御嶽山も望めます。そして毎年の元旦の朝には初日の出を若草山の高台から眺める人も数多く見られます。

緑地公園を45年走ったり歩いたりしていますが色々な人に出会い挨拶をして一日が始まります。名前は知らずに言葉を交わす人が、しばらく会わずにいると、どうしているだろうかと思いつつ、そして再開すると「お元気でしたか」と元気な顔を見ると嬉しくなります。又、公園も色々設備が充実してくる一

方、自然が減っていくのが寂しく感じる。環境が変化して人々が変わるのは仕方がないと思い徐々に公園も変わり、走る人も若い人が多くなり次代に引き継がれて行くことでしょう。

※3 ひとこと

山口恭子

定例会や野外学習などで、ここ大高には古代から近世に、わたって多くの深い歴史があることを知りました。

最近では遠くから散策会に訪れる人も多くなりましたが、地元の方たちにはあまり知られていないようで、残念です。この貴重な遺産を、小中学校の郷土学習などを通して、未来にも伝えていただきたいと思います。

※4 感想

深谷篤

会報50号、よく続いたなあというのが感想です。大高の歴史的魅力を紹介し、大高を多くの人々にもっと知ってもらいたいと思います。「どうする家康」の影響は、全国に大高をPRしてもらえました。ありがたいことです。

※5 会報「ほだかの里だより」編集者の思い

山口初宏

会報 50 記念号の発行おめでとございます。

歴史の会では月2回の定例会にて勉強会を行っていますが、その題材(教科書)は“大高町誌”と“ほだかの里だより”です。町誌は数年をかけて2回も繰り返し勉強しました。ほだかの里だよりは現在、進行中で14号まで終えた所です。会員・諸先輩の原稿はそれぞれに個性が表れており興味深いものです。

専門分野の連載もの、難読で理解するのに苦勞するもの、素晴らしい表現で感激するもの、はたまた、わかりやすく“うんうん”と頷けるもの等バラエティーに富んでいるのが特徴かな?と思います。

会報は徐々にネタがなくなってきた今後どうするか?と悩ましい、この頃ですが、できるだけ発行を続けて行きたいと思案中です。

※ 7 ほだかの里だよりのあゆみ

50号特集の一環として会報代表号の目次をリストアップし下記に示す。

1 平成23年(2011)創刊号・春季4月号〔第1号〕

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| <会報発刊にあたって> 花井彰(顧問) | <大高の今昔> 会員からのひとこと |
| <大高の歴史に想いを寄せて> 山口輝雄(会長) | 連載「大高の歴史的石造物を訪ねて」第1回 |
| <大高歴史の会のあゆみ> | 連載「鷺津山つれづれ物語」 |
| <大高のできごと あれこれ> | |

2 第20号 平成28年(2016)1月発行(冬号)

- (留と小春の歴史茶話) 大高あれこれ 2<<大高城址>>
大高の行事予定
「少年月間雑誌」と「講談小説」
幼き頃の思い出(その2)
鉄道記念物「日本の第1号機関車」は大高も走っていた
大高のできごとあれこれ(平成27年10~12月)
大高歴史の会のあゆみ(平成27年10~12月)
連載「大高の歴史的石造物を訪ねて」第20回 「旧知多郡大高町役場跡地碑」
史跡説明版の紹介 第1回(氷上姉子神社浜島居跡)

3 第30号 平成30年(2018)7月発行夏号

- 日本の大高を訪ねて
日本人(大高人)のルーツを探る その2
【俳句四首】大高城跡・長寿寺
大高のできごとあれこれ平成30年4~6月)
大高今昔「子女教育」考 序章
徳川家康にとって大高とは?
陽の目を見る「鷺津・丸根の砦」
大高歴史の会のあゆみ・大高の行事催事(平成30年4~6月)
大高の歴史的石造物を訪ねて第29回 「大高城主 志水家墓碑—その4」
史跡説明板の紹介 第10回「春江院」

4 第40号 令和3年(2021)1月発行(冬号)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 留と小春の歴史茶話 お彼岸念仏(下) | 歴史へのひととき |
| 「大高町史」研究の為に その3 | 熱田(宮)宿と大高の情景のひとこま |
| 大高のできごとあれこれ | 大高の薬師寺(その1) |
| 山口輝雄前会長を偲んで | 大高に存在する橋の紹介 |
| 大高歴史の会のあゆみ・大高の行事催事 | 第9回 新大高橋 以上 |

<大高のできごと あれこれ>

[令和5年(2023)4月~6月]

「花まつり」(4月8日)(土)

釈迦の生誕を祝う「花」まつり。小堂の水盤に立つ釈迦像に甘茶をかけます。その後、紙コップに注いで甘茶をいただきます。

長寿寺、薬師寺、春江院にて行われました。

「あいち都市緑化フェア」(4月29日)(土)

大高緑地にて第35回あいち都市緑化フェアが開催されました。

大高地域観光推進協議会として参加し、テントの中で御城印、砦印、絞り巾着袋、等を販売し、フェアを盛り上げました。



「頭人祭」(5月6日)(土)

熱田神宮から頭人と言われる使者が氷上姉子神社をお参りし自画の鷹の絵馬を奉納する「頭人祭」が行われました。

神事終了後、縁起物の粽(ちまき)が神殿前にて参拝者に配られました。



「鷲津砦慰霊祭」(5月21日)(日)

桶狭間の戦いの前哨戦である鷲津砦の戦いで犠牲になった戦没者の霊を慰める式典が大高北学区中之郷町内会連合会主催で行われました。



「丸根砦慰霊祭」(5月21日)(日)

同じく丸根砦の戦いの戦没者慰霊祭も晴天の中丸根砦慰霊奉仕会主催のもと行われました。

「熱田神宮大高斎田御田植祭」(6月25日)(日)

曇り空の下、第91回目の御田植祭が熱田神宮大高斎田にて執り行われました。

テント内での神事後、早乙女による田舞や奉耕者も加えた田植え儀式も加わりイベントに花を添えました。

コロナの影響による規制がなくなり、大勢の見物客で賑わうと共に緑区生涯学習センターとMRF(緑区ルネッサンスフォーラム)主催の散策会も行われ大高のPR活動を盛り上げました。



大高の行事予定(2023年7月~2023年10月)

7月24日(月)に西口地蔵尊 地蔵盆 9時30分~

7月30日(土)大高・大高北学区合同納涼夏祭り

8月1日(火)龍宮社例祭(旧6月15日)19時30分~

9月17日(日)城山八幡社例大祭

9月19日(月)大高地域敬老祝賀式典

9月23日(日)田中神明社例大祭 13時30分~

9月30日(金)八幡社提灯祭り 18時~

9月30日~10月1日(土・日)大高祭礼(氷上姉子神社例大祭)

<大高歴史の会のあゆみ>
[令和5年(2023)4月~6月]

<例会> [第2・第4月曜日9:30~12:00 例会(勉強会)を八幡社参集所で開催]

- 第297回(4/10) ほだかの里だより第13号
P10 まちかど案内板の紹介 [第9回 中之郷津島社・秋葉社]
ナゴヤ歴史探検 P74~75 名古屋近代化の礎を築いた11人の偉人たち 5-7
- 第298回(4/24) ほだかの里だより第14号
P1~3 <おおだか・なつかしのあの辺り> (南大高駅付近編)
- 第299回(5/8) ほだかの里だより第14号
P4~7 近代東海文学巷談(参)
P8 「ちょっと昔の大高展」開催
P9 <大高歴史の会のあゆみ>平成26年(2014)4-6月
P10 <大高のできごと あれこれ>平成26年(2014)4月-6月
P11 大高の歴史的石造物を訪ねて [第14回] [大高城址] 碑
- 第300回(6/12) ほだかの里だより第14号
P12 まちかど案内板の紹介 [第10回 大高八幡社]
ナゴヤ歴史探検 P76~77 名古屋近代化の礎を築いた11人の偉人たち 8-11
ほだかの里だより第15号
P1~3 <おおだか・なつかしのあの辺り> (桶狭間道編)
- 第301回(6/26) 大高史料館大掃除、DVD鑑賞

<その他の活動> [会のあれこれ情報]

- 「会報第49号(令和5年春号)発行」(4月6日)
約670部、印刷、於 緑区社会福祉協議会。丁合は4月10日に実施
- 「緑区観光推進協議会総会」(5月15日) 於 緑区役所講堂 代表が出席
- 「ガイド勉強会」の開催(5月16日)(6月16日)
会員ガイド養成のため勉強会を実施 講師 深谷会員 参加者 両日共 各4名
- 「野外学習 小牧山の散策」(5月22日) 参加者 8名(深、山口恭、山口登、林田、浜島鐘、安田、上坂、初)
- 「クアオルト健康ウォーキング下見会」(6月5日) 鷺津・丸根砦、大高城跡 2名(深、初)

<ガイド実績> 史跡・町並み散策ガイド依頼受付窓口: 深谷篤 090-8952-8610

- 4月30日(日) 丸根砦、大高城跡 2名 (深、)
- 5月2日(火) 大高城跡散策会 シルバーカレッジ 11名 (初、深、鐘、林田)
- 5月10日(水) 大高城散策会 鯨城学園 5名 (深)
- 5月11日(木) 鷺津砦・丸根砦、大高城跡散策会と酒蔵見学(神の井) 11名(初、深、スタッフ3名)
- 5月19日(金) 大高城見学 八幡社駐車場 11名 クラブツーリズム (深、スタッフ3名)
- 5月26日(金) 氷上姉子神社周辺 6名 南生協病院 (深)
- 6月6日(火) 大高城散策会 中村まち歩きマスターの会 11名(深)
- 6月9日(金) 大高城見学 12名 高知県 和光史談会 (深、スタッフ3名)
- 6月25日(日) お田植祭見学 氷上姉子神社大高斎田 18名 (深、MRF)

ガイド実績 (4-6月) 9件 70名

大高緑地の四季 ii 「夏の花々」

山口初宏

緑地の夏は花菖蒲^{しょうぶ}から始まる。梅雨入りの時期になると菖蒲園が黄色、青、白などの色とりどりの花を一斉に咲かせ賑やかになる。

片や琵琶ヶ池の畔^{ほとり}にも花菖蒲がひっそりと姿を表わしている。



花菖蒲園

菖蒲園の近くには二本株のヤマボウシが真っ白な花びらを広げて存在感を示している。ミズキ科の落葉高木で白いハナミズキの花にそっくりである。



ヤマボウシ



ブラシノキ

和風庭園の一角にはブラシノキが鮮やかな朱色の花をつけて輝いている。フトモ科の常緑小高木で別名を金宝樹^{きんぼうじゆ}といい花はボトルを洗うブラシの形をしている。この花も満開時は映える。

第 8 駐車場の西対面にはもう一つの梅雨花、紫陽花(アザサイ)が華やかに咲いている。



アジサイ科の落葉低木で白、青、紫、赤紫の花が美しい。花の色は土壤の PH(ℎ°-ℎ°-酸性度)によって変わり一般に酸性ならば青、アルカリ性ならば赤となる。

花木園にはタイサンボクの木に真っ白な大きな花をつけ8月になると湿地帯に、可愛らしい、さぎ草が顔を出す。



タイサンボク



さぎ草

大高緑地には、このほかに初夏のマテバシイ、スタシイや真夏に咲き誇る、百日紅^{きりすずべり}や夾竹桃^{きょうちくとう}・等の花々が彩りを添えており見どころいっぱいである。

**説明ガイドさん & 新規会員
募集中です！**

連絡先 (052) 623-2307

大高の歴史を学び伝える

**大高歴史の会 会報
第 50 号 2023 年 7 月**

[平成 21 年(2009) 4 月発足]

連絡先 (代表) : 山口 初宏
〒459-8001

名古屋市緑区大高町字天神 4 4

052-623-2307

散策関係 担当 : 深谷 篤

090-8952-8610

史料関係 : 丸山 忠之

052-621-7376

会報は年 4 回発行の予定です。

(冬 1 月、春 4 月、夏 7 月、秋 10 月)

会報バックナンバーご希望の方は上記連絡先へお問い合わせ願います

(本号の編集は山口初宏が担当しました)